



国内で生産される茶の品種は「やぶきた」に偏っており、病害虫の多発や作期の集中などの問題を有しています。実需者ニーズの多様化も進み、これらの問題に対応した新品種が必要とされており、「やぶきた」に替わる品種として「せいめい」（農研機構育成）、「はると34」（宮崎県総合農業試験場育成）が注目されています。

「せいめい」は、やや早生の品種で「やぶきた」並みの耐寒性を有しているため、県内のほとんどの産地で栽培できます。病害には比較的強い品種ですが、クワシロカイガラムシに対しては防除が必要です。一方、「はると34」は、極早生で凍害に対する抵抗性が低いため、早場地帯での栽培に適します。

そこで、これらの品種の一番茶において摘採前の5日間の被覆を行い、品質に与える影響を調査しました。

その結果、両品種とも、うま

茶新品种「せいめい」「はると34」

摘採前の5日間被覆 ともに品質がアップ

味成分である全窒素およびアミノ酸が増加し、渋味成分であるタンニンおよび茶芽の熟度の目安となる繊維が低くなったことから、生葉品質の向上が図られました。さらに、製茶品質も露

被覆処理が茶品種「せいめい」「はると34」の品質に与える影響

品種名	処理	一番茶荒茶成分 (%)				一番茶製茶品質 (注1)		
		全窒素	アミノ酸	タンニン	繊維	外観	内質	計
せいめい	被覆	6.6	5.4	10.6	18.4	16.3	20.5	36.8
	露地	5.6	4.3	11.5	21.7	13.3	17.5	30.8
はると34	被覆	6.8	5.3	11.0	17.5	16.2	22.7	38.8
	露地	5.8	4.3	12.3	20.2	14.2	19.7	33.8
やぶきた	露地	6.1	4.5	13.7	17.5	14.8	17.7	32.5

注1)外観(形状、色沢)および内質(香气、水色、渋味)は各項目10点の計50満点評価、5人の合議制
注2)数値は3カ年の平均値

地に比べ優れ、被覆栽培に適した品種であることがわかりました。今後、県内での生産、普及拡大が期待されます。

(長崎県農林技術開発センター 果樹・茶研究部門茶業研究室 研究員 中尾隆寛)